

# たてはく

令和5年度 後期特別企画展

## 越中立山の近世本草学 —何でもあり! あふれる探求心—

会期：令和5年9月16日(土)～11月5日(日)

これまで、ニッチな視点から立山にまつわる隠れたエピソードを紹介してきた、当館では異色の「本草学がテーマの企画展」です。

当館所蔵の重文「銅造帝釈天立像」と一緒に、別山に祀られていたらしい「独鈷石」の存在を示す絵図、立山にも「誕生石信仰」があった可能性をうかがわせる絵図が見つかったこと。幕末に立山で植物採集を行い、雷鳥の尾羽も拾って持ち帰っていた本草学者がおり、しかもその時に採集した植物（腊葉標本）や雷鳥の羽が現存していること。今年は植物学が何かと話題ですが、明治時代に独学で植物学を学び「日本中の植物の戸籍簿」を作ろうと発起し、3,000枚を越える原稿や精細な写生画を残した、高山植物好きの知られざるアマチュア植物研究家が福光にいたことなど……。

今回は江戸時代の本草学の展開を、何でもありの教養世界“近世本草学”としました。好奇心、探求心を知る楽しみや豊かな生活時間につなげた、まさに江戸時代のウェルビーイングの一端を、立山にまつわる初公開資料を交えて紹介します。

(吉野俊哉)



- 開催場所 立山博物館展示館1階 企画展示室
- 開催時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)
- 観覧料 一般200円、大学生100円 ※高校生以下は無料
- 会期中の休館日 月曜日(9/18・10/9は除く)、9/19(火)、10/10(火)

●企画展担当学芸員による展示解説会  
9/16(土)、10/9(月・祝)、11/4(土) いずれも14:00～

## 目次

令和5年度 後期特別企画展	
「越中立山の近世本草学 —何でもあり! あふれる探求心—」	1
「日本三霊山」コーナーを常設展示室に設置&特別公開展を開催中!	2
令和5年度 前期特別企画展	
「みてみて! 仏像のポーズ—手足が語る“みほとけと立山”」を終えて	2
令和5年度 文化講演会 開催案内	
「立山の高山植物、その探索の歴史 —近世から近代へ—」	2
学芸課発 立博雑学	
第10回 「袖」にまつわるお話(2)	3
[ボランティア活動報告] 各種講座で楽しく立山について学んでいます!	3
[秋の催し案内] 「もみじを愛でる会」を開催	4
[博学連携] 博物館実習を終えて	4
[夏の催しご報告] 4年ぶりの“たてはく探検隊”	4
地獄博物館 ミュージアム de ナイト in 芦峯寺	4
編集後記	4





## 「日本三霊山」コーナーを常設展示室に設置 & 特別公開展を開催中!

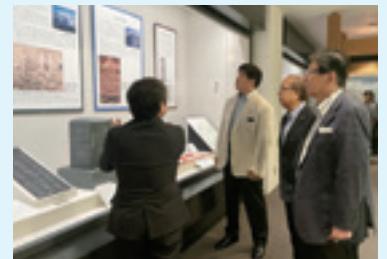


本年1月22日に富山県・静岡県・石川県の知事による「日本三霊山」を活用した地域振興の連携・協力協定が締結されました。立山博物館では「文化・学術」の分野で、石川県立歴史博物館と静岡県富士山世界遺産センターと協力して、立山だけでなく、白山・富士山の魅力も発信していこうと考えています。

その一環として、8月8日(火)より展示館2階の常設展示内の「立山に寄せたところ」で、白山信仰や富士山信仰を紹介し、白山・立山・富士山と3つの山を巡る「三禅定」を行った人の道中記や記念に建てた石碑などについても紹介しています。また、「三霊山展示コーナー設置記念特別公開展」と題して、8月29日(火)から10月1日(日)まで愛知県の大府市歴史民俗資料館所蔵の「三山道中記」と知多市歴史民俗博物館所蔵の「三禅定道中記」・「三禅定道中確」・「三山道中日記」を、8月30日(水)から9月27日(水)まで国立国会図書館所蔵の「三つの山巡」を期間限定で公開しています。

早速、9月1日(金)には、新田知事と一緒に、石川県の馳浩知事と静岡県の川勝平太知事が視察でお越しになりました。

ぜひ、皆様も新しくなった展示を見にお越しください! (細木ひとみ)



### 令和5年度 前期特別企画展

## みてみて! 仏像のポーズ —手足が語る“みほとけと立山”を終えて



仏教を身近に楽しみながら学べるよう、仏像のさまざまなポーズに着目した本展では、阿弥陀如来・不動明王・娑尊・如意輪観世音菩薩・閻魔王・帝釈天・地藏菩薩の七種類の仏さまを取り上げ、それぞれの手足の形や持ち物、そこから窺える信仰などについて、立山信仰を絡めながら紹介しました。国内でも珍しい来迎印を結ぶ「三尊来迎佛」の掛幅(常楽寺蔵)や、前田家・徳川家ゆかりの「木造不動明王坐像」(日石寺蔵)など初出展資料を公開したほか、一見お坊さんのように見える娑尊像(芦峯寺閻魔堂蔵)や、芦峯寺旧社家伝来の木造帝釈天立像(芦峯寺蔵)なども展示し、その姿に立山信仰の独自性が反映されている可能性を指摘し、既存資料の再検討も試みました。ポーズを真似しながらご観覧ください方も多く、幅広い世代の方々にお楽しみいただけた展示となりました。

最後に、本展開催にあたりご協力いただきました関係者各位と、貴重な資料をご出品いただきました所蔵者の皆さまに、心より御礼申し上げます。(観覧者数: 2,859人) (坂口 舞)



### 令和5年度 文化講演会 開催案内

## 「立山の高山植物、その探索の歴史—近世から近代へ—」

後期特別企画展の関連行事として、江戸後期から明治の近代植物学黎明期に、先人たちが記録してきた立山での高山植物探索の跡をわかりやすくお話しいただきます。

- ◆講師: 佐藤 卓氏 (日本海植物研究所所長・富山県生物学会会長)
  - ◆日時: 10月14日(土) 14時~16時 (開場13時30分)
  - ◆会場: 立山町元気交流ステーションみらいぶ・1階 イベント広場
  - ◆定員: 35名程度 要事前申込
  - ◆締切: 10月5日(木) 必着
- ※申込方法など、詳しくは当館HPやチラシをご覧ください。



「タカネツメクサ」





学芸課 発

## 立山雑学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

## 第10回「袖」にまつわるお話(2)

今回も「袖」にまつわるお話で、大阪平野大念佛寺の略縁起、「隻袖事略」(個人蔵)を取り上げます。陸奥の巡礼が箱根で、ある女の霊に出会います。霊は住吉の社人・山上松太夫の妻で、自分のために大念佛寺で法事を営むよう親族へ言付けて欲しいと、形見の片袖と香盒を巡礼に託します。巡礼から子細を聞いた松太夫は、大念佛寺三十六世道和人に法事を執り行うようお願い出ます。法事を終えた日の夜更け、どこからか異香がただよい紫雲がたなびくと女人衆が現れ、妻が往生極楽の望みを遂げたことを告げました。そしてこの功德を後世に伝えるため、片袖と香盒は大念佛寺に納められた、という内容です。

本書には「…今天明七祝丁未之年より一百七拾一年前之元和三年…」とあり、天明7年(1787)の成立とわかります。また巻末に、天保10年(1839)、大念佛寺での片袖と香盒のご開帳に参列し、本書を入手した臥丸なる人物の添え書きがあります。以下はその翻刻です。

## 隻袖の圖

隻袖の地ハ羽二重のやうにて紫色の年を経てうつろひて、少しあかみたるにや紫朽葉色のやうに見ゆる也。もやうハ皆縫にて圖のごとく枝桔梗と輪の内にハ八重桔梗の花を白青黄などの色がはりにて所、にちらしのもやうを付たり。

## 香盒の圖

香合ハ圖の如く亘り壱寸四五分ばかりの丸き塗物にして梨子地のやうに見ゆるふたの上に花形のやうなるつまみあり。

右は天保十年亥三月平野大念佛寺開帳ありし時詣て圖記す。

秋の野の桔梗もやうのあはれさに

又かた袖をぬらすもろ人 臥丸

臥丸は開帳の片袖や香合を写生して、自身の簡単な解説を添え、自作の和歌(袖もよりの桔梗から発想を飛ばして秋の歌にしています)も詠んでいます。山上松太夫と妻の霊に思いをはせ、ご開帳を見た自らの心情を一首の中に巧みに描いた見事な歌です。

この平野大念佛寺の縁起をモチーフにした作品に、西村市郎右衛門の「沈香合」(『新御伽婢子』所収、天和3年(1683))や、十返舎一九の『大念佛寺靈宝略伝運理隻袖』(文化8年(1811))等があります。特に後者は、仇討ちやお家再興等、流行を反映した物語に片袖幽霊譚を加え、娯楽性の高い読み応えのある作品となっています。

暑さもやわらぎ、「秋の夜長」を迎えた今日この頃。この機会にこれらの本をお供に、ゆったりと夜を過ごしてみたいはかがでしよう。

(奥澤真一郎) [3]



[2]



[1]

ボランティア  
活動報告

## 各種講座で楽しく立山について学んでいます！

立山博物館では、ボランティア会員向けに、立山の自然や歴史を楽しく学ぶ2時間程の講座を定期的に開催しています。

内容は当館学芸員が専門分野を分かりやすく紹介したり、各方面の第一人者をお招きしてのフィールドワークだったり、バラエティーに富んだものになっています。友の会会員向けの講座とも連携し、今年度は「芦峯寺の石造物」(講師：古川知明氏)、「木戸幸一の立山登山」(講師：岡田館長)、「まんだら遊苑の香り」(講師：吉武利文氏)、「新収蔵品の立山曼荼羅の解説会」(講師：細木学芸員)、「他地域のボランティア活動に学ぶ—富山市岩瀬編—」(岩瀬案内グループ)などをすでに開催し、参加者から好評を得ています。今後も楽しく立山の自然や歴史を学べる講座を開催していきます。

(石崎康弘)



まんだら遊苑の香り講座





# 秋の催し案内

イベントの詳細は  
博物館まで  
お問合せください!

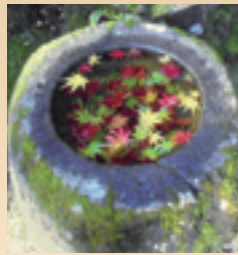
## 「もみじを愛でる会」を開催!

秋の恒例になりました、もみじを愛でる会を旧宿坊教算坊にて開催します。

普段はなかなか見る機会のない「立山曼荼羅」の絵解き解説を、申込不要で参加ができます。また、絵解き解説ののちには、昭和30年～40年代の懐かしい立山観光の映像上映会もご紹介します。

ノスタルジックな雰囲気漂う空間での秋のひとときをどうぞお楽しみください。

- ◎開催日：11月3日(金・祝)、5日(日)
- ◎場所：教算坊 ※申込不要、参加無料
- ◎絵解き時間：11時～11時40分 14時～14時40分



# 夏の催し ご報告

## 4年ぶりの“たてはく探検隊”

4年ぶりの実施となる「たてはく探検隊」が、7月29日に参加者52名(子供26名とその保護者26名)でにぎやかに復活しました。盛りだくさんな内容で、子供達も飽きることなく熱心に各会場で話を聞き、クイズに回答していました。猛暑日の予報を受け、水や塩飴を配布し熱中症対策を入念に行うなどの特例はあったものの体調を悪くする人も出ず無事に活動を終えられました。



参加者からは、「今回参加して立山信仰について興味が湧き、立山博物館にまた来たい」との声を多くいただきました。

(瀧川織恵)

# 地獄博物館

## ミュージアム de ナイト in 芦峯寺



8月11日(金・祝)・12日(土)の二晩だけ、立山博物館が“地獄博物館”に大変身! スタッフが鬼や地獄の亡者に扮してお客様をお迎えし、教算坊庭園を幻想的にライトアップしました。また、オリジナルグッズがもらえる「立山地獄めぐりスタンプラリー」や、閻魔王からのクイズに答える「〇×クイズ対決!」、ちょっと怖いけど面白い「立山曼荼羅絵解き」など、ご家族で楽しく立山を学ぶイベントが盛りだくさんでした。



今年は天候にも恵まれて、ご家族連れを中心に、昨年以上の来館者がありました(展示館327名、教算坊558名、山岳集古未来館342名、いずれものべ人数)。来年も趣向を凝らして、“地獄博物館”をさらにバージョンアップしていきたく思います。

(石崎康弘)

# 博学 連携

## 博物館実習を終えて

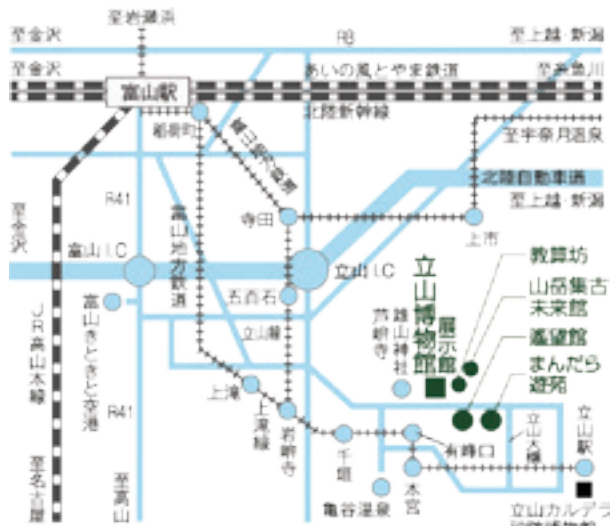
今年度は8月15日(火)から18日(金)・22日(火)から25日(金)の計8日間、2名の大学生が参加しました。実習では、施設見学や講義、実技実習を通して、広域分散型で地域に密着した立山博物館の在り方や、学芸員に必要な考え方や技能についてレクチャーしました。特に、昨年度の博物館法改正や、登録博物館制度と博物館相当施設についても解説し、博物館が今後求められる新たな社会的な役割や在り方についても考えてもらいました。ほかに、恒例の立山曼荼羅の絵解き解説と企画展案のプレゼンなども行い、多くのことを能動的に学んでもらえた実習となりました。(坂口舞)



# 編集後記

7月の山開きとともに、立山博物館もオンシーズン! 特別企画展が始まり、楽しいイベントも盛りだくさんで、7月、8月は職員一同フル稼働です。「日本三霊山」を活用した連携事業もいよいよ始まり、9月1日には石川県の馳知事、静岡県川勝知事にもご来館いただきました。どんなに辛いことがあっても、皆様からいただく「立山、大好き!」の声が頑張りの活力になっていますので、これからも沢山お声掛けくださると嬉しいです(笑)。(H.H)

# 案内図



- 最寄り駅  
富山地方鉄道立山線千垣駅  
下車徒歩(約2km)  
※日曜を除き町営バス運行  
「雄神社前」下車すぐ
- 自家用車で  
JR富山駅から 約45分  
立山駅(千寿ヶ原)から 約15分  
富山インターチェンジから 約35分  
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のホームページはこちらから。



人間と自然のかかわり方を学ぶ

# 富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1  
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

<https://www.pref.toyama.jp/1739/miryokukankou/bunka/bunkazai/home/index.html>

FacebookとTwitterあります!

立山博物館

